【地域情報】

オオサキを見た！

――飯能・秩父地域に伝承される未知の生物目撃談

話　平井　大作
聞き取り　平井　亜未*
解説　加藤　寛之**

解説　「オオサキ」について

「オオサキ」は、飯能・秩父地域に伝わる伝説の生物とされる。「オオサキ」あるいは「オーサキ」「オサキ」という。近年は、その名を知る人は少ないだろう。

大石真人は、オオサキの調査をしたと著書『奥武蔵』に記してあり、詳細な記述を行っている。

大石氏によれば、「オオサキ」は飯能地域に広く伝承され、奥武蔵で「最大の勢力圏名栗では…」とある。見た人や捕らえたという人の話もある。同書には、今から20年程前（解説者注：昭和10年代？）、吾野村大字南642番地に居住する間野徳右衛門という人が３頭を切り殺して持ち帰り近所に披露したとあり、東吾野村白子にオーサキを埋めたという塚があると記述している。大石氏は、生物としては「秩父地方に多いエゾイタチかコエゾイタチをさしているのに違いない」としている。オオサキに関する記述は伝承やそれとされる生物の説明が多いが、大石氏は社会生活や西川材との係わり、語源にも言及している。

その姿は次のように書かれている。

> 「すなわち、その胴の長さは一尺三寸から五寸位、いたち位の大きさで足はみじかくもぐらのよう、指の間には水かきがあり、毛の色は黒、灰、茶、栗色等に白ぶちの奇々怪々な模様、顔はねこの様に丸くて黒いひげがあり、目は丸く小さく、耳は肉薄く丸みがあって後に寝て居り、尾は体の三分の一位で、飯盛り杓子に似て平たく、短い毛が一面に密生している。見るからに猪口才な風貌で、キチキチとかカツカツとか聞く人により違った変な声で鳴くという。」

関根邦之助「秩父の民俗オオサキについて」によると、オオサキとは秩父地方の独特の名称であり北関東ではオサキなる名称としたうえで、次のように書かれている。

> 「オサキ狐は民間伝承で云われる一種の怪獣であり、狐に似て色が白く、大きさはハツカネズミ位で尾が二つにさけ、その故オサキギツネといわれるとされ、…結局動物学上では想像動物としか考えられず、ネズミとイタチの雑種の如きもので、ハツカネズミより少し大きく、色は斑色、

＊　城西大学ＩＲ準備室
＊＊　城西大学広報課長

橙色、ネズミ色、茶色、灰色等の種々なる色調を示し、頭より尾まで黒い線があり、背中に白い条があるとも云われている。中部山岳地帯に伝説する怪獣、オコジョとも相通ずるものではなかろうか。」

これらで語られたオオサキは、大きさも色も多様である。今回紹介する「オオサキ」は小型であり、新たな生態も証言されている。近年「オオサキ」が伝えられなくなったなかで、今回の目撃談は貴重である。

最後に参考資料の一部を掲載する。

（参考資料）

・大石真人（1954）『奥武蔵』朋文堂マウンテンガイドブックシリーズ
・神山弘・新井良輔（1984）『増補ものがたり奥武蔵　伝説探訪二人旅』金曜堂出版部
・秩父民俗研究会『秩父民俗』
　創刊号（1968）　関根邦之助「秩父地方の医療に関する迷信と風習」
　第２号（1968）　関根邦之助「秩父の民俗オオサキについて」
　第３号（1969）　関根邦之助「「おおさき狐」について図書館での文献調査」
　第４号（1969）　野中義夫「オ々サキの語源に関する伝説其の他」
・埼玉県立久喜図書館が，レファレンスの記録をWeb上に公開しており，参照資料が記載してある．
　https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000103336
　提供館　埼玉県立久喜図書館（2110009）
　管理番号　埼熊－2011－159
　事例作成日　2011年10月22日
　登録日時　2012年03月08日　13時39分
　更新日時　2012年06月03日　16時28分

証言記録

話	平井　大作
聞き取り	平井　亜未
聞き取り日	2020年10月27日
聞き取り場所	平井　大作　自宅

2021年に90歳を迎える祖父が以前にオオサキをみたという話をしていたので、詳しく聞き取りをした。

平井大作（89歳・聞き取り時点）は25歳から84歳まで猟をしていたベテランの猟師。2015年に引退した。

・オオサキを目撃した時期と場所は？

「日野管林と大滝だったいな。それと１匹で見たんは天目にのぼる登山道だいな」

どうやら、２度見たことがあるらしいので詳しく聞いてみた。

１度目は、仲間と猟に出かけたときで日野管林（荒川村・現秩父市）と大滝（村・現秩父市）の境いの頂上に上がりきる手前。仲間が鹿追して、そこはシカがよく通るところなのでタツバ（立つ場所のこと、待ち伏せ）していたときのこと、のこぎりで切った木がいくつか積み上げられているところにいた。その積み上げられている木の下を出たり入ったりしていたそうだ。

２度目は、大体同じくらいの時期に、ひとり猟に出かけたとき天目（天目山）に上る狭い登山道。シバ（落ち葉）がたまっているところの下にいた。そこには日が当たっていたので日向ぼっこして寝ていたのかなと言っていた。

地図を見ながら場所を指さす祖父大作

・見た目の特徴は？

「白だの黒だの、茶色に白が混ざったような、まっさかきれいな動物だなって見るのは見たったん。掌に乗るくれぇの、ポケットに入れられる大きさだったいな。顔は可愛かった。」

※まっさか＝とても・非常に

食卓にキウイがあったので、そのくらいか聞いてみたらもっと小さくてポケットにすっと入るくらいの大きさらしい。

・なぜそれがオオサキとわかったのか

「だってそんな動物が普段いるわけねー。俺も初めて見た動物だもの。かわいいからってポケットに入れて持ってきたらいいこたぁねぇっつーわけだったいな。だけど人によっちゃぁ欲しいものはオオサキが自分ち運ぶんだってわけよ。そんで大臣になったつぅんだから。だからオオサキ持ちだって近所の人に憎まれたって話だったいな。まんざら嘘じゃねんだんべな。今そんな話する人いなくなっちゃったんな（笑）ふんとうにきれいな色だったんなぁ・・・」

※大臣になった＝お金持ちになった　※ふんとうに＝本当に

この質問にどのように答えるのか一番興味があった。誰も見たこともないのになぜオオサキと分か

ったのかが最大の謎だったが、山奥でいろんな動物を見てきた祖父が見たこともないとてもきれいでかわいい動物だったのでそう思ったと。当たり前のように話すので、すっと腑に落ちた。

・オオサキの話はどうして知っていたのか

「昔っからみんながよく話したったいな。かわいいからってポケットなんざいれて持って帰ると悪ぃことがあるとかゆう話は聞いたことがあるんよ。」

当たり前のように、昔はオオサキの話は出ていたらしい。かわいいからと持ち帰るとよくないことが起きるというパターンと、オオサキが欲しいものを持ってくるのでお金持ちになるというパターンの話。お金持ちになったら悔しいので、悪いことが起こるよ！と言っているんじゃないかと祖父は推測していた。だったら、持って帰ってきてほしかった。

・ほかに見た人がいるか

「見たこたなかんべ。俺も見たことねぇかわいいきれいなもんがいるなぁ。あ！これがオオサキってやつだって思ったんだから。俺ぁ２回見たけど、うんとおくりだよ。おくさん。」
※うんと＝ずっと　※おくり＝奥の方　※おくさん＝山奥

祖父の平井大作は秩父市の影森で生活してきたが、「今はそんな話をする人はいなくなっちゃった」時代に聞き取りをすることができた。飯能・秩父地域の民俗研究の貴重な記録の一つになることを願っている。